

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：「交差する風・織りなす場—SMFアート楽座・アートバンク2010」\* SMFはSaitama Muse Forumの略称  
事業者名：同上 実行委員会（中核館：埼玉県立近代美術館）

住所：埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1

埼玉県立近代美術館 内

TEL： 048-824-0110

FAX： 048-824-0118

HPアドレス： <http://www.artplatform.jp>

連携事業者名：入間市博物館ALIT、うらわ美術館、川口市立アートギャラリーATLIA、川越市立美術館、東京電機大学理工学部、ほか

会場：埼玉県立近代美術館、北浦和公園、うらわ美術館、旧川越織物市場、川越市立博物館、川口市立アートギャラリーATLIA、Kawaguchi Art Factory、入間市博物館ALIT、東野高等学校、越谷市（KAPL）、北本市

事業期間：平成 22年 6月 1日～ 平成 23年 3月 15日



## 1. 館の使命と本事業の関係

今日の美術館は、すぐれた美の規範を提供するミュージアムとしての機能を維持しながら、同時に本質的な芸術普及活動を行うアートセンターとしての役割を次第に強く求められるようになってきている。当館では従来の名品至上主義、展覧会中心主義的なミュージアム像を超えて、「新たな考え方や価値を発見するための体験を提供」とするとともに、「人々が集い、参加し、交流するための基地」となることをミッションに掲げている。本事業は、地域のミュージアムや大学・学校等諸機関、アートNPO等との連携を深め、地域の人々との協働によりさまざまな地域資源を活用し、柔軟で機動的なネットワークの形成をめざすもので、このようなミッションにふさわしいものである。

## 2. 企画内容

### ① 事業目的

これまでの事業を通して形成されてきたゆるやかなネットワークを活かし、ミュージアムを拠点として地域のさまざまな芸術資源を活用する「SMFアート楽座」を市民・県民と協働して実施することにより、各ミュージアムの地域軸をいっそう強化する。また「アート楽座」と連動しながら、これまでの情報の蓄積を活かし、Web上での人材・スペース・ソフト等の情報公開と相互リンク、アート相談、人材派遣やアート活動支援を行う「SMFアートバンク」事業を試行し、持続的な活動基盤の形成をめざす。

### ② 事業概要

2010年7月から2011年1月にかけて各連携ミュージアムを拠点に、それぞれの地域資源の活用を図るユニークで多彩なアートプログラムを「SMFアート楽座」として、入間、川口、川越、浦和、北浦和の各地で開催した。プログラム作りを新たな協働の契機と考え、美術のみならず、音楽、舞踊、パフォーマンス、建築など、さまざまなジャンルの関係者をつなぎながら、美術館とあわせて、公園や広場、工場など身近な場所でのアートの展開を試行した。また県内で意欲的な活動を展開するアート関係者、アート系NPOの出会いと交流の場とすべく「ラウンドテーブル2010」の開催やニュースレター「SMF PRESS」の発行、ホームページの充実を図り、「アートバンク登録」を行ってアート情報バンクづくりに着手した。あわせて「アートボランティア講座」を開催した。

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

##### ① アートな縁側「SMF アート楽座」プログラム

###### (ア) アート楽座@IRUMA「方丈庵・〈き〉がわりの假具で 自在の間を楽しむ」

9月24日・25日（展示は～10月3日）入間市博物館 ALIT、東野高等学校、計270名参加  
安井清氏考案の「方丈庵」、内田祥哉氏考案の「〈き〉がわりの假具」。この二つを茶の博物館として知られる入間市博物館内に設営し、これをメインステージとして、エア点前、創作ダンス、建築対談、隣接するクリストファー・アレクザンダー設計の東野高等学校建築ツアーなどのプログラムを実施し、「仮設」性を通して、伝統と現代の交差・共鳴を試みた。

###### (イ) アート楽座@KAWAGUCHI「夜会 ―〈場〉から創る―」

10月9日 川口市立アートギャラリーATLIA、KAF、計280名参加  
開放的な建築空間のATLIA とものづくりの記憶が堆積した鋳物工場（KAF）の異空間を結び、創作ダンス、各種パフォーマンスで構成される「夜会」を開催し、雨天にもかかわらず詰めかけた観客から好評をいただいた。準備段階を含めて異なるジャンルのアーティストや学生が協働・交流する機会とした。

###### (ウ) アート楽座@KAWAGOE「交差するまなざし」

11月20日～23日 旧川越織物市場、川越市立博物館、他、4日間計280名参加  
「交差するまなざし」をテーマに、旧川越織物市場を会場として、川越のまちへの子どもたちのまなざしと5人のアーティストのまなざしが交差する美術展、ワークショップを開催した。あわせて川越市立博物館でシンポジウム（11月23日）を実施した。

###### (エ) アート楽座@URAWA 「多世代交流ワークショップ」

11月13日、23日 うらわ美術館、2日間計58名参加  
昨年、好評を博した多世代交流ワークショップをさらに展開させた臨床美術プログラム「Chatting Art」、参加者が取材・撮影した写真を通して相互の交流と地域へのまなざしの発掘を図るワークショップ「子供の眼・大人の眼―つながる心」を開催した。



###### (オ) アート楽座@KITAURAWA 埼玉県立近代美術館、北浦和公園ほか

- a「風の記念日」（7月18日、181名参加）：今年度のオープニングイベントとして、かざぐるまのワークショップと参加型インスタレーションを開催し、SMFの展開を振返った。
- b「美術教育5750分Ⅱ」（8月7～10日 越谷KAPL、計53名参加／8月29日 埼玉県立近代美術館、55名参加）：中学校3年間の美術授業の総時間数（50分×115コマ）を表題に掲げた複合プログラム。現場の美術教師たちによる公開制作作品展（会場：KAPL）、ユニークなワークショップや教育実践の活動報告を含むシンポジウム（会場：埼玉県立近代美術館）を通じて、現在の美術教育の課題を広く共有しアピールする機会とした。



- c「体感する美術—サウンドアートから」(10月23・24日、11月6・7日、11月20・21日、講堂・創作室、6日間計838名)：サウンドアートの分野で活躍中の藤本由紀夫氏、松本秋則氏、河村陽介氏+三友周太氏を各回の講師に迎え、インスタレーション展示と、アーティストトークやワークショップによって、新たなアートの世界を五感を通して楽しんだ。
- d「音楽という表現の拡がりとともに」(11月28日、12月19日、1月16日、講座室・講堂、3日間計120名)：耳を澄まし意識を開くことから概念の枠組みを超えて拡がる世界を体感することをめざす「サウンドスケープ」や「音モンタージュ」の2本のワークショップと、「具体音楽」の創始者ピエール・シェフェールの貴重な映像の上映会と作曲家、音楽評論家のトークセッションを開催した。



- (カ) アートピクニック「越谷再発見！」(7月24日・越谷、参加15名)、アートピクニック「北本再発見！」(10月10日・北本、参加8名)：埼玉県内でまちとアートを結ぶユニークな活動を展開している「まちアートプロジェクト」(越谷)、「キタミン・ラボ舎」(北本)の協力により、越谷、北本でアート散歩プログラムと研修交流会を計2回実施した。

## ②「SMF アートバンク」事業と「ラウンドテーブル2010」

ミュージアムを拠点として、これまでに形成されたゆるやかなネットワークをさらに拡充し、柔軟で機動的な対応と人材・情報資源の活用を図るため、以下の事業を開催した。

- a アートバンク登録：これまでにSMF事業に連携・協力・参画していただいたアーティスト、アートNPO、アートのスペース等の活動紹介ファイルを作成し、SMFホームページ上で順次公開することとした。(約15の個人・団体作成済、2011年4月以降も順次拡大予定)
- b アート井戸端かいぎ：運営委員・協力委員がホストとなりアート井戸端かいぎを開催、アートに関するさまざまな話題を気軽に話せる場づくりの端緒とした。(4回開催、計43名参加)
- c アートに関わる人材派遣コーディネート事業：連携協力機関を含め、各地域や団体の要望に対しアートバンクを活用したコーディネートや人材派遣のレファレンスを行った。
- d アートボランティア登録：SMFの各種事業の運営を支援するボランティアを募集・登録するとともに、アート・ボランティア講座(9月19日、11月13日、1月15日の計3回、計28名参加)を開催し、情報交換や交流を図るとともに、活動のブラッシュアップの機会とした。
- e ニュースレターの制作・配布：アート楽座事業の告知やレポート、連携各ミュージアムや協力団体・個人の活動情報などを盛り込んだニュースレター『SMF PRESS』を隔月で刊行し関係機関に配布、またWeb上で公開し、活動の周知を図った。(第1号から第5号まで5回発行)
- f ラウンドテーブル2010の開催：県内で意欲的な活動を展開するアート関係者、アートNPOの参加により昨年に続きラウンドテーブル2010を開催し、活動発表・意見交換・交流の機会とし、アートバンク登録やSMF事業への参画を促した。

(12月18日、埼玉県立近代美術館、52名参加)

\*実施組織：各美術館・博物館館長に有識者を加えて実行委員会を組織、事務局を埼玉県立近代美術館内に置いて実行委員会制により実施。(実行委員会は、6/4、3/9の計2回、運営委員会は、6/13、7/11、8/1、9/5、10/3、11/6、12/4、H23.1/9、2/6、3/5の計10回、開催した。)



## (2) 参加者の数

参加者人数 延べ2,281人 内 訳：各事業欄参照

## (3) 事業により作成した印刷物等：チラシ9種、プレス1～5号 記録集『風の軌跡』（A4判24p）、映像記録DVD（約20分）



## (4) 実施事業に関する新聞記事等

### ○新聞記事

- ・「埼玉新聞」2010年7月20日：「300本の風車で芸術イベント」（高橋信彦）
- ・「朝日新聞」2010年8月28日：「〈中学校の美術教育〉あすシンポジウム」
- ・「日経新聞」2010年9月17日：「観る—方丈庵・〈き〉がわりの假具で自在の間を楽しむ」
- ・「日経新聞」2010年9月22日：「観る—夜会〈場〉から創る」
- ・「東京新聞」2010年9月25日：「きょうから多彩に〈秋のお茶まつり〉」（鈴木賀津彦）
- ・「読売新聞」2010年9月26日：「秋のお茶まつり入間で始まる」
- ・「朝日新聞」2010年9月26日：「〈隠遁所〉で一服し狭山茶の文化堪能」
- ・「朝日新聞」2010年10月6日：「体験・参加型の芸術いかが？ アート 自作の充実感」

### ○テレビ、関連誌等

- ・「埼玉県立近代美術館ミュージアム・ニュース ZOCAL0」2010年4-5月号：「かざぐるまの投げかけたもの—誰がアートを支えるのか？」（中村誠）
- ・「NHKさいたまFM 日刊さいたま〜ず」2010年9月1日：「交差する風・織りなす場—SMF アート楽座・アートバンク2010」（下村寧／青山恭之・中村誠・藤井香）
- ・「地域創造レター」No.186 2010年9月25日号：「埼玉県 SMF アート楽座・アートバンク2010〈5750分展Ⅱ—美術教育は生きているか？〉」（土屋典子）
- ・「埼玉県立近代美術館ミュージアム・ニュース ZOCAL0」2010年12-1月号：「コレオグラファーが視たMOMAS」（藤井香）

## 4. 事業の成果及び今後の課題

本事業は、ミュージアムをキーステーションとしてアートNPO、アーティストやボランティア、大学等諸機関など、さまざまな人材（団体・個人）をゆるやかにつなぎ、柔軟で機動的なネットワークを形成し、芸術活動の持続的な基盤となるプラットフォームづくりを促そうとするものである。各ミュージアムが、ユニークな地域資源の活用や地域の人材発掘・育成を図っていくことは、社会的要請も大きく地域軸の強化にもきわめて有効である。多彩な「SMF アート楽座」のプログラムは、交流・協働の実践の場ともなり、この3年間で企画・運営に参画する委員も若い世代を中心に大きく増えてきた。活動基盤整備によりこのネットワークの定着を図り、「アートバンク」や充実してきたホームページ、『SMF PRESS』等の活用により発信力を強化して、さらにアートの輪を広げ、次の軌道に乗せることができるかが、今後の課題である。